

## 令和3年度第3回草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和4年3月23日（水）14時00分～15時40分  
場 所： 草津市役所8階大会議室  
出席委員： 三浦委員長、藤田副委員長、小沢委員、塚口委員、浦部委員、齋藤委員、  
小林委員、井上委員、小泉委員、柴田委員、村田委員、吉川委員、荒木委員  
欠席委員： 河合委員、新崎委員、園田委員、黒川委員、関川委員、南委員、小野澤委員  
事 務 局： 副市長、健康福祉部山本理事、健康福祉部増田部長、健康福祉部永池副部長、  
健康福祉部田中副部長、都市計画部松尾部長、建設部打田部長、  
環境経済部太田副部長、健康福祉政策課岸本課長、  
健康福祉政策課田村課長補佐、健康福祉政策課野々村副係長

傍 聴 者： 0名

次 第：

1 開会

2 議事

- 1) 今後の健幸都市づくりに必要な視点および計画の見直しの方向性について
- 2) 令和4年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組について

3 閉会

## 1. 開会

---

### 【副市長】

委員の皆様にはお忙しい中ご出席をいただきまして、厚くお礼を申し上げます。

皆様ご存知のとおり、健幸都市づくりは従来の健康施策の枠組みを超え、ソフト・ハード両面から取り組んでおります。一例を申し上げますと、今年1月には、市の都市計画に関する基本的な方針である草津市都市計画マスタープランを策定し、その理念を「市民とともに育み 次世代へつなぐ 利便性と豊かさのある 健幸な都市 草津」と定めたところがございます。これは将来にわたる人口減少局面においても、生活利便性が確保された「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造の中で、誰もが心豊かな生活を送ることを通じて、健やかで幸せを感じられる「健幸」な都市を目指すことを謳っているものです。

全国の都市を対象とした「住みよさランキング」におきまして、草津市は高い評価をいただいております。これは「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の5つの基準で評価をされていますが、今後は「健幸都市」という基準でも評価をいただける市にしていきたいと考えているところです。

本日は、今後の健幸都市づくりに必要な視点や計画の見直しの方向性等につきまして、皆様から御意見を頂戴し、計画に反映させていきたいと思っております。今後も引き続き、一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<副市長、退席>

### 【事務局】

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

### 【事務局】

それでは、以後の進行を三浦委員長にお願いする。

### 【委員長】

それでは、事務局から資料の確認をお願いしたい。

### 【事務局】

・資料確認

## 2 議事

### 1) 今後の健幸都市づくりに必要な視点および計画の見直しの方向性について

#### 【委員長】

まずは事務局から説明をお願いしたい。

#### 【事務局】

・資料にもとづき、説明

#### 【委員】

まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係で現行計画は3つの区分けだったはずだが、国の方針との関わりはどうか。

#### 【事務局】

前回会議において「しごとの健幸づくり」が分かりにくいのご意見をいただいたので、次期計画では「ひと」と「環境整備」の2つに分けたところである。「しごとの健幸づくり」は無くしたのではなく、両方に分けて整理している。

#### 【委員】

まち・ひと・しごと創生総合戦略は国から交付金が出るはずだが、次期計画の体系を変更して問題はないのか。

#### 【事務局】

市のまち・ひと・しごと創生総合戦略は第6次草津市総合計画と一体的に策定し、国からも認可いただいている。健幸都市基本計画の変更は切り離して考えている。

#### 【委員】

体系自体は分かりやすくなったが、従来の「しごと」が新体系のどこに該当するのか分かりにくい。

#### 【事務局】

「しごと」は、例えば健康経営は新体系の「世代ごとの健幸づくり」に、産学公民連携は「支え合いによる健幸づくり」に含めている。

#### 【委員】

持続的な社会という視点では雇用が重要であり、雇用について明記すべきである。

**【委員】**

今後の社会を考えて、持続性や多様性、メンタルヘルスを当計画に位置付けていく必要がある。様々な人が活躍できる社会を構築していくのが今後の課題と思われる。

**【事務局】**

資料2は案となっており、ご指摘いただいた視点も含めさらに検討してまいりたい。

**【委員】**

新しい指標は客観的な指標といえるのか。

**【事務局】**

現行計画の指標はアンケートに基づくため、主観的なものになる。客観的なほうがよいというご意見を踏まえ、新しいものを提案した。健康寿命や平均寿命は、市のデータによって算出できる客観的なデータとなる。

**【委員】**

健康寿命と平均寿命は数字が出てくるが「差が限りなく短い」という表現が主観的だと感じる。具体的に数値を示すことが客観的ということではないのか。

**【委員長】**

健康寿命と平均寿命の差は、介護が必要となる期間となる。差は短いほうが良いが、平均寿命が短くても差は短くなる。また、一般的に平均寿命が長くなると、健康寿命との差は大きくなる傾向にある。代表的な複数の目標を定めたほうがよいと思うが、1つにするなら、「平均寿命が延びてかつ平均寿命と健康寿命の差が短くなる」がよいのではないのか。

**【委員】**

新しい案だと「健康」になってしまう。健幸都市の認知度が上がらないという問題もあるので、現在の全体目標も継続し、複数の目標を掲げるほうがよい。

**【委員】**

草津市は全国的には若い街という評判だが、これからますます高齢化社会に突入していく。歳をとっても健康でなければ幸せではない。健康で長生きということをもっとアピールするような、みんなを喜ばすようなものにしたらよいと思う。

**【委員】**

指標の「限りなく」を入れなくてもよいと思う。現行計画の全体目標が下がっているのは、

「健幸」という言葉を知らない人が多いと思うので、周知について検討したほうがよい。

**【委員】**

全体の方向性はわかりやすくなった。健康寿命については、子ども世代からの取組の成果の結果が必ずしも健康寿命ではみえてこないとも思いつつ、全体的に健幸都市が進んだ結果として健康寿命の延伸につながるという形としては、良い指標だとも思う。

健幸都市基本計画は、市の各種計画がうまく連携することで結果的に健康寿命の延伸につながっていくということになるが、その個々の取組自体が基本計画に関係していることが伝わらないと、市民も自分事として考えにくい。関連イベントを実施する際にも、常に健幸都市くさつのロゴを表示して、計画の一部の事業であることをアピールする必要がある。自分が関係する事業や計画が健幸都市くさつの取組の1つだと伝える方が、市民としては実感しやすい。各計画がどのように関連して相互作用をうんでいるかを図示できると、より市民にとってはわかりやすいのではないか。

**【委員】**

体系案は分かりやすくなった。健幸都市を市民にアピールするという点については、健幸都市のロゴや旗をみただけでは、実際にどういう事を開催されているのかが見えない。計画を読んで、その先に自分が参加できるイベントなどがみえると分かりやすくなると思う。

**【委員】**

市民が直接参加できる具体的な活動を示していく必要がある。現行計画の全体目標の質問は、何が健幸なまちなのか分からないと「はい」と答えられない。新しい指標の健康寿命は大きな概念過ぎて、実際に自分は何をしたらいいのか、どういう行動を起こしたらいいのか分かりにくい。それぞれの分野で具体的な目標が定められて、それに向かって活動ができ、そこに市民を巻き込んでいく形がとれればよい。

**【委員】**

目標は複数あってもよいのではないか。「健幸」の「幸」の部分のいかにアピールしていくかについて、引き続き取り組むべきである。

**【委員長】**

差が短くなるという目標では、介護予防になってしまう。寿命自体の延伸とすれば、様々な取組がつながる。健幸なまちかどうかがよりも、今幸せかどうかを質問することも、幸福という意味ではよいのではないかと思う。

**【委員】**

資料2に「目指すべき姿（指標）」とあるが、「目指すべき姿」として大きな概念を定め、それをどの程度達成できているかを示すのが指標であり、「目指すべき姿（指標）」というのは非常に分かりにくい。目指すべき姿を文章で表現し、それをできるだけ客観的な指標で表すべきである。

**【委員】**

本来は主観的な目標では分かりにくいですが、そういう側面もある目標があってもよい。

**【委員】**

健康寿命の延伸が大切であり、健康寿命を延伸して平均寿命との差を縮小していくという表現が良い。体系を2つに分けたのは良いと思う。地域住民の健康づくりの資源と、職域での健康づくりの資源を互いに連携させながら、地域の健康増進につなげていくということが大切であり、地域職域連携というような表現があってもよいのではないかと。

2) 令和4年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組について

**【委員】**

2ページの②草津PAと連携した拠点整備基本構想策定費について、草津インターとその周辺を整備するというのか。店舗等を整備するのか。

**【事務局】**

パーキングエリアとその付近に新たな拠点を整備する。名神および新名神の合流地点であることから、路線バスと高速バスの防災拠点として、例えばボランティア活動の拠点として活用する構想をたてており、店舗等を整備するのではない。

**【委員】**

4ページの②在宅医療・介護連携事業費について、草津の在宅医が増えるように検討していただきたい。

**【事務局】**

草津市では在宅医療介護連携センターを令和2年5月に開設しており、バックアップ体制を強化することで訪問診療医を増やしていきたいと考えている。

**【委員】**

草津市は「くさつ在宅医療ネット」という、訪問診療医がお互い連携し合い互助するネッ

トワークがあり、現在は12、13人ほどの医師が参加している。互助ネットワークがあると訪問診療の敷居が少し低くなると考えられ、また近隣市には訪問診療専門の診療所もできたので、そことも連携して取り組んでいければと思う。

**【委員】**

今までの反省点として「健幸都市」という言葉があまり知られてないという点があった。希望するまちづくり協議会で健幸を理解してもらうミーティングのような場を設けると認知度が上がると思うので、ぜひ検討いただきたい。

**【委員】**

現行計画では「しごと」に野菜摂取の関連が掲載されているが、新計画では「ひと」の関連に変更されている。令和4年度はまだ現行計画の期間内ではあるが、「ひと」の部分に野菜摂取量を推進する取組があってもよいのではないか。

**【事務局】**

来年度の主な取組としては挙げていないが、現行計画でも「ひと」に食育や野菜摂取の啓発の取組があり、飲食店との連携による野菜摂取の啓発や、中学校給食などの取組も行っている。

**【委員長】**

議事は以上となるが、議事録については、事務局でとりまとめをした上で、確認を私に一任いただいてもよいか。(⇒異議なし)

**4. 閉会**

---